

(あて先) 景観整備機構 公益財団法人名古屋まちづくり公社 理事長

申請者

所在地 名古屋市中区丸の内二丁目 1-36

名称 ○○家住宅の活用を考える会

フリガナ ナゴヤ ハナコ
代表者 名古屋 花子



生年月日 1961年7月25日

歴史まちづくり活動助成申請書

歴史まちづくり活動について、歴史まちづくり活動助成実施要綱による助成を受けたいので、同要綱第6条の規定により下記のとおり申請します。

記

1 歴史まちづくり活動において目的とする予定事業

○○家住宅の保存活用調査と情報発信

2 助成金交付申請額

金 100,000 円

3 申請する理由

○○区××エリアに残る○○家住宅は、大正○○年に建築された町家建築である。××エリアには旧△△街道が通っており、古くから多くの人が行き来し栄えた。特に××といった現在にも続く伝統産業が発達したため、比較的多くの歴史的建造物がそのまま残っている。

当該建物も伝統的な建築様式を残している。外観には格子窓や下見板張りが見られ、内部は漆喰塗りに真壁造りである。先代が大切に維持してきた建物を壊したくないとの思いを所有者は持っているが、維持管理が大変なため現在空き家となっている。

今回、当該建物を調査することで、建物の価値を明らかにし、活用の方策を検討するにあたっての一助としたい。また、地域の人々やまちづくりの活動団体に調査結果を報告する機会を設け、より具体的な活用に繋げられるよう情報発信に力を入れたいため、当該助成を申請する。

4 申請者の概要

名 称	〇〇家住宅の活用を考える会			
代表者	氏名	名古屋 花子	電話	〇〇-××-▲▼
			FAX	〇〇-××-△▽
E-Mail			〇〇@××	
	住所	〒460-0002 名古屋市中区丸の内二丁目1番36号		
連絡先	氏名	景観 太郎	電話	〇〇-××-■ ■
			FAX	〇〇-××-□□
			E-Mail	××@□□
	住所	〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号		
設立時期	2019年12月1日			
構成員数	10人 ※別紙添付			
団体の目的	〇〇家住宅の保存活用を検討する。			
主な活動地域	名古屋市〇〇区××エリア			
活動実績	2020年1月～ 〇〇家の庭掃除をボランティアで行う（月1回） 2020年8月 地元のまちづくり団体との合同検討会開催			
過去に受けた助成	なし			
誓約	<input checked="" type="checkbox"/> 当団体は反社会的団体や反社会団体の構成員等の統制下にある団体に該当しないことを誓約します。			

5 事業の収入支出予算書

収入

項目	予算額 (円)	内訳
参加費	20,000	1,000 円×20 名
寄付金	10,000	5,000 円×2 (所有者、他団体)
会費より繰入	17,000	
当助成	100,000	※助成金交付申請額と同じ
計	147,000	※①

支出

項目	予算額 (円)	内訳
諸謝金	40,000	講師謝金
使用料および賃借料	30,000	会場使用料 20,000 機材使用料 5,000 ZOOM使用料 5,000
印刷製本費	20,000	調査報告資料
業務委託料	20,000	調査業務委託費
消耗品費	20,000	
通信費	7,000	郵送料 @140×50件
計	147,000	※①と同額

6 助成を受けようとする活動費用の内訳書

項目	内訳	金額 (円)
諸謝金	講師謝金	40,000
使用料および賃借料	会場使用料 20,000 機材使用料 5,000 ZOOM使用料 5,000	30,000
印刷製本費	調査報告資料	20,000
業務委託料	調査業務委託費 ※助成額の半額以下	10,000
合計		100,000

(注) 1 この申請書には、次に掲げる資料を添付してください。

- (1) 活動提案書 (第2号様式)
- (2) 規約、会則等
- (3) 構成員及び役員の名簿 (氏名、住所 (区まで) を記載してください)
- (4) 事業計画書
- (5) その他理事長が必要と認める資料

2 歴史まちづくり活動助成実施要綱第2条第2項の規定に該当するときは、

歴史まちづくり活動助成金を交付しません。また、交付決定後にその旨が判明したときは、交付決定を取り消し、助成金の返還を求める事があります。

上記事由を確認する必要がある場合には、申請書に記載されている情報を愛知県警察本部に照会することがあります。

備考 用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とする。

活 動 提 案 書

提案名	〇〇家住宅の保存活用調査と情報発信
団体名	〇〇家住宅の活用を考える会
提案の活動を行う地域	名古屋市〇〇区××エリア
提案の内容	<p>※以下の点に留意して記載してください。</p> <p>①活動の目的・目標 ②身近な歴史的建造物の保存活用への貢献 ③外部発信 ④実現性</p> <p>目的 〇〇家住宅の現況調査をすることで、建物の価値を明らかにし、活用の方策を検討するにあたっての一助とする。また、地域の人々やまちづくりの活動団体に調査結果を報告する機会を設け、より具体的な活用に繋げられるようにする。</p> <p>目標 ・調査により、建物の建築年代の測定と、現況図面の作成、建物の価値や傷み具合について明らかにする。 ・報告会出席者数は地元住民 30 名、まちづくり活動団体 2 団体を目標とする。</p> <p>内容 ①〇〇家住宅の現況調査の実施（専門家への委託） ・建物の建築年代の測定 ・現況図面の作成 ・建物の価値の把握 ・建物の傷み具合の把握</p> <p>②〇〇家住宅の活用検討（会員内） ・①の結果を踏まえ、団体内で活用方策を検討</p> <p>③〇〇家住宅の調査及び検討結果報告会の実施（一般向け） ・①②の内容を報告書にまとめる ・報告書を基に、地元住民や他団体向けに報告会を実施する。</p> <p>※建物所有者から、調査時の建物提供協力が得られる見通し。 ※経費は必要最小限とし、寄付や会費の収集の目途が立っている ※調査や活用検討、報告会の実施に必要な人員についても、会員内で充当できる内容としている。</p>
対外的発信手段（予定）	調査結果の発信…報告会の実施、他団体への送付、公民館での開架 報告会の広報…チラシ、SNS、回覧板、公民館での掲示

活動期間	令和 3 年 10 月 ～ 令和 4 年 1 月
	活動内容
令和 3 年 10 月	調査内容の検討 調査の実施
11 月	活用策の検討
12 月	報告会会場予約 報告書の作成 報告会広報
令和 4 年 2 月	報告会実施 助成報告書の作成・提出